

いわみざわ市の教育

特集

岩見沢市教育実践奨励表彰式を開催しました

主な内容 岩見沢市立くりさわ学舎を開校します

児童・生徒数と学級数の推移について

市内学校へのエアコン設置が完了しました

教育長コラム「世界のはっこちいさな教室」

【写真の紹介】

3月12日(水)に栗沢中学校として最後の卒業式が行われました。
また、栗沢小・中学校では19日(水)に閉校式を行い、4月から義務教育
学校“くりさわ学舎”として新たなスタートを迎えます。
皆さんの新たな門出を応援しています。

岩見沢市教育委員会 Facebook

市内の教育に関する行事の情報を
発信していますので、ぜひ「いいね！」
してください！

<https://www.facebook.com/edu.iwamizawa>



令和6年度 岩見沢市教育 実践奨励表彰

個人40名
3団体
奨励賞

個人75名
3団体
優秀賞



岩見沢市教育実践奨励表彰とは？

岩見沢市教育委員会では、市の学校教育・社会教育における実践研究や地域の教育振興に貢献した団体と、体育・文化活動等で広く活躍した児童生徒などを表彰しています。

～がんばりの軌跡～

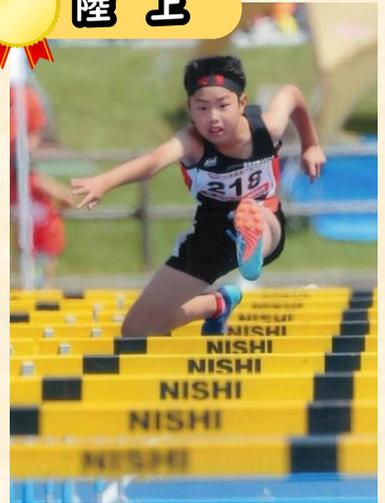
水泳



カヌー



陸上



空手



少林寺拳法

珠算



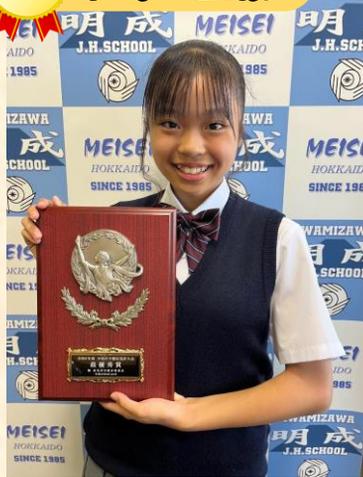
ドッジボール



野球



少年の主張



サッカー



卓球



美術



各種検定



ピアノ



読書感想文



受賞者の確認はこちら！

市教委ホームページに教育実践奨励表彰式の様子を掲載していますので、ぜひご覧ください！

https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/soshiki/gakkoku_oikuka/kyoiku_iinkai/4/3/1/14812.html



【問合せ先】学校教育課総務係 ☎ 0126-35-5121

ご挨拶 ~吉永教育長より~

令和6年度岩見沢市教育実践奨励賞を受賞される皆さん、誠におめでとうございます。

様々なスポーツ大会や文化活動のコンクールにおいて、優秀な成績を収められ、皆さんが広く活躍されていることを大変嬉しく思っています。

これまで途中で投げ出したくなることも沢山あったかと思いますが、しかし、皆さんにはそれを乗り越えて努力を続けていく力や、周りの人たちに感動や勇気を与える力があります。

この表彰を励みに、今頑張っていることをさらに続けていってください。そして、ときには新しいことにもどんどんチャレンジしてみてください。そうして得られる経験は、将来皆さんにとって必ずや大きな財産になっていきます。そして、自分のことを支えてくれているご家族、先生方への感謝の気持ちを忘れずに、これからも飛躍していきましょう。

岩見沢市教育実



くりさわ学舎

岩見沢市で初の義務教育学校を開校します

令和7年4月、栗沢地域に栗沢小学校と栗沢中学校を統合した施設一体型の義務教育学校『岩見沢市立くりさわ学舎』を開校します。

義務教育学校とは、一人の校長のもと、一つの教職員組織が9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校で、小・中学校の区切りがありません。空知管内で義務教育学校の設置を検討する市町村が増加しているなか、岩見沢市では初の義務教育学校となります。

くりさわ学舎は、現在の栗沢小学校校舎を活用して、一つの学び舎で1年生から9年生までの全員が学習します。

これまでの経緯

令和6年6月から、義務教育学校の開校に向けて、学校、地域の代表者、教育委員会で構成された開校準備委員会にて、地域に愛され親しまれる学校を目指して協議を進めて参りました。

開校準備委員会の開催内容や開校に向けた経過は、岩見沢市ホームページに掲載しています。

また、今後は新校舎の情報も掲載を予定しています。

[くりさわ学舎に関する情報はこちら!](https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/soshiki/gakkokyoikuka/gakko_kyoiku/sho_uchuikkan/gimukyoiiku/kurisawa/index.html)

(市ホームページのリンクになります)

https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/soshiki/gakkokyoikuka/gakko_kyoiku/sho_uchuikkan/gimukyoiiku/kurisawa/index.html



くりさわ学舎の名前の由来

栗沢小学校と栗沢中学校の児童生徒、保護者の方々に実施した校名アンケートの結果を踏まえ、開校準備委員会で検討を重ねた結果、次の理由により学校名を決定しました。

- 一 地域に愛される地域の学校という想いから「栗沢」という地域名を残す
- 二 現在の栗沢小学校、栗沢中学校の基本理念である「すべての子どもが栗沢で学んでよかった」という教育の実現のために就学前の子どもでも読め、親しみのあるひらがな表記の「くりさわ」とする
- 三 現栗沢小学校に統合前のほとんどの小学校の校歌に「学び舎」というフレーズが使われており、栗沢には多くの学び舎があったという歴史を背景としながら、一つ屋根の下で1年生から9年生が学ぶという意味から「学舎」とする

くりさわ学舎の教育

くりさわ学舎の教育は、次のような特色・メリットがあります。

- ✓ 9年間の継続した学習指導、中学校教員が小学校高学年の算数や英語などの授業を日常的に行う「乗り入れ授業」により専門的な指導を受けることができ、学力の向上が期待できます。
- ✓ 小学校教育段階から中学校教育段階への移行が円滑となり、学習環境や人間関係が大きく変化することにより発生するいわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる問題の緩和や解消が見込まれます。
- ✓ 学校行事等を通じて1年生から9年生までの幅広い異学年交流が促進され、上級生から下級生への思いやりの心や、下級生から上級生への憧れ・尊敬の気持ちなど精神的な発達や社会性の育成への効果が期待できます。
- ✓ 9年間の継続した学習指導が行われることにより、教職員間で児童生徒の状況共有がしやすく、個性や状況に応じた効果的で丁寧な指導が可能になります。

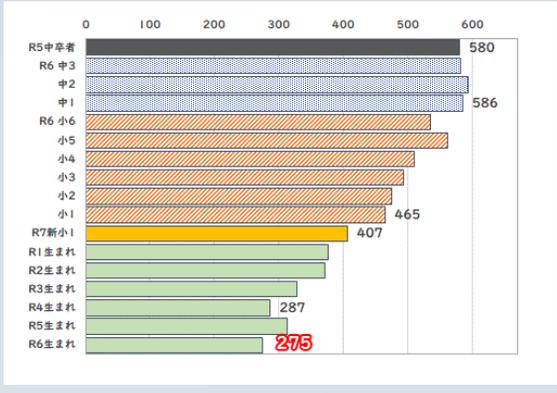
R7児童生徒数(見込)

前期課程 91人
(1年~6年)

後期課程 58人
(7年~9年)

合計 149人

児童・生徒数と学級数の推移について



岩見沢市の子ども数は減少が続いており、令和6年(1月～12月)の出生数は、現中学1年生の半分未満となる275人でした。

子どもの減少に伴い、学校の小規模化が進むため、教育委員会では教育環境を適切に維持するための検討を進めています。

- 【注】
- ※R6小1～中3はR6.5.1時点の児童生徒数
 - ※R7新小1はR7.2.28時点の入学見込者数
 - ※R1～R6生まれは各暦年(1～12月)の出生数(市統計書より抜粋)

令和7年度 新1年生の 児童・生徒、学級数 (見込)

複式学級

	岩見沢小	中央小	南小	志文小	幌向小	東小	美園小	日の出小	第一小	第二小	北真小	メープル小
人数	37	51	50	23	18	23	46	35	59	19	21	2
学級数	2	2	2	1	1	1	2	1	2	1	1	0.5

	東光中	光陵中	緑中	豊中	上幌向中	清園中	明成中	北村小	北村中	くりさわ学舎 新1年	くりさわ学舎 新7年
人数	80	179	79	37	24	30	56	7	17	15	19
学級数	3	5	3	1	1	1	2	1	1	1	1

令和12年度 新1年生の 児童・生徒、学級数 (見込)

	岩見沢小	中央小	南小	志文小	幌向小	東小	美園小	日の出小	第一小	第二小	北真小	メープル小
人数	35	46	27	18	21	20	37	13	50	13	4	5
学級数	1	2	1	1	1	1	2	1	2	1	1	0.5

	東光中	光陵中	緑中	豊中	上幌向中	清園中	明成中	北村小	北村中	くりさわ学舎 新1年	くりさわ学舎 新7年
人数	70	153	80	39	26	33	39	6	10	10	15
学級数	2	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1



岩見沢市
子育てポータルサイト

学校に関する情報はこちらから確認出来ます！
<https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/kosodate/keyword/gakko/index.html>



【問合せ先】学校教育課学校教育係 ☎ 0126-35-5125

市立学校への

エアコン

今夏より市内学校で本格稼働！
設置が完了しました

教育委員会では、児童・生徒が熱中症などの重大な健康被害に陥ることを防止し、快適で安心・安全な学習環境を確保するため、普通教室などに空調設備(エアコン)の設置を進めてきました。

7月末には小学校への設置が完了し、この度、中学校や緑陵高等学校への設置が完了いたしました。

【問合せ先】学校教育課施設係 ☎ 0126-35-5131





履歴書にある趣味の欄に何を書こうか、悩むことがよくあります。如何せん、無芸無趣味であるが故に、うーむ

と考え、取り敢えず捻り出して記すのは「映画鑑賞」です。しかし、おこがましくも趣味と言えるものではありませんし、近年は、映画館に足を運ぶことは頃に少なくなりました。

そんな中、一昨年、札幌のシアターキノで観たのが、『世界のはしっこ、ちいさな教室』という俊逸な映画です。

この映画は「世界のはしっこ」、つまりは「地の果て」と思えるような地域で、ひたむきに奮闘する3人の女性教師を1年以上かけて追い続けて撮影したドキュメンタリーになります。

まず、映画に登場する一人目は、西アフリカのブルキナファソという国で教師になったばかりのサンドリーヌです。この国では人口が急増し、公用語であるフランス語の識字率を上げることが国策となっています。サンドリーヌは車を何度も乗り継ぎ、自宅から600キロも離れた奥深いジャングルの学校に赴任します。そこにあるのは、およそ学校とは言えないほどの土壁でできた粗末な小屋。電気も水道もありません。しかも教師は彼女だけです。

掘っ立て小屋のような学校には、密林地帯に暮らす子どもたちが50人ほど通ってきます。サンドリーヌは



「この国を確かなものになりたい」と、懸命に読み書きを教えますが、教室に飛び交うのは5つの部族言語です。子どもたちは生まれ育った部族の言葉しか話せません。それでも、彼女は諦めず、自腹で購入したソーラーパネルの光で、日が暮れても子どもたちに教えるのです。

もう一人は、バングラデシュの若い女性教師タスリマです。バングラデシュではモンスーンによって雨季になると、集落の半分が水没してしまいます。そのため、集落を船で巡回して生徒を集め、そのまま船の上が学校となります。

この国には厳しい自然環境とともに、貧困と根深い因習があります。とりわけ、法律では禁じられているものの、児童婚（バングラデシュでは約59%の女性が18歳未満で結婚し、そのうちの3分の1以上は15歳未満で結婚しています）の割合が世界で最も高い国なのです。親は娘を早く結婚させ、その持参金を生活資金にします。

ですから、縁談を優先し、学校へ行かせようとはしません。タスリマは自立した女性に育ててほしいと願い、学校を諦めようとする女生徒を励ましたり、学校へ行くよう親を説得したりするので



3人目に登場するスヴェトラーナは、極寒の地シベリアで教師を務めています。ここでは冬になるとマイナス50度を超える

こともあり、一面銀世界の中でトナカイを育てる遊牧民が生活しています。彼女は移動して暮らす遊牧民の集落へ、白い息を吐きながら一人で犬ぞりにテントを積んで回ります。そして集落に着くや、テントを立て、そこが学校となります。教育の機会がなかなか届かない子どもたちに数週間教えると、また別の遊牧民の集落へ向かっていくのです。

世界には、これが教室かと思えるほどの教育環境が存在しています。同時に、そこには「学びを求める子どもたち」も存在しています。

「教師とは何か」「学校とはどういう存在か」「学ぶ意義とは何なのか」。そんなことを考えさせられる映画でした。

さて、この映画に出てくるような教育は、決して遠い国の話だけではありません。

広大な大地の北海道にも、「へき地教育」に携わる教師がいます。

さらに言えば、九州の鹿児島県では、本土から船で13時間かかる地域に教師がいます。「十島村」という南北160キロに十の島が連なる離島です。島には売店もないので、生活必需品や食料品は週2回の船便に頼るしかありません。それも海が荒れると、欠航になります。当然、ここにも子どもがいて、七つの島に学校があります。

都市部とは真逆の不便な所であっても、生計を立てながら人は住んでいるし、子どもがいれば学校が存在します。もちろん、環境条件の厳しい地域に赴任することを迷う教師がいることも事実です。かと言って、そんな教師を非難することはできません。「個人の犠牲」の上に学校があってはならないと考えます。

それでも世界や日本で学校の役目が果たされ、教育が継続しているのは、子どもたちの笑顔や学びの場を創り上げようとする教師が少なからずいるからです。

「学校教育の基盤は何か」と問われれば、それは教師の「使命」と「覚悟」に他なりません。

画像引用

映画「世界のはしっこ、ちいさな教室」公式サイト (<https://hashikko-movie.com/>) より